

## 会社より山小屋のほうが居心地がいいようで（展望荘ではたらく）

土居将人（府中市）

ナマステに寄稿しない？と依頼がきたのが今年夏。山小屋バイトはもの珍しいかなと2回にわたって載せてもらった。するとひと段落して、事務局から「仕事もいいけど、土居ちゃんについても書いて」とまたまた機会を頂いてしまった。ならば登山記録かな。分水嶺トレイルの一部を歩いた記事にしようと思う。3日間かけて60キロ弱歩いた。



### [1日目]

塩山駅からバスに乗って1時間、終点の西沢渓谷に着く。空は高く、紅葉した葉もだいぶ落ち、カラッとした肌寒ささえ感じる。徳ちゃん新道を歩いて30分程、最初は体慣らしのためにゆっくり歩いたが、汗もかかずにスイスイ登れた。鹿を何度も見つけては、ピーと鳴いて逃げていく。4時間も歩けば甲武信小屋に着き、小休憩。少し進むと道がひらけ、これから進む稜線が目のあたりになった。枯れ木や低木が続いていて、ゲンナリするような上り下りも無い。奥多摩付近の山は森に覆われて蒸し暑い印象があったので、いい場所みつけた、と機嫌もよくなる。

3時を過ぎた頃、やっと雁坂峠(かりさかとうげ)に到着した。道標に「日本三大峠」と書いてあり、古来から道として使われていた。古くは大和武尊のころから往来があったようす。調べてみると、武田信玄が雁坂峠を整備したとか。当時の衣類や道具で歩くのは大変だろうなあと思う。



今日の目的地、雁坂小屋に着いたのは4時をまわった頃で、程なくして日が暮れた。テントは持ってきているが雨予報なので小屋泊まり出来ないか尋ねると、小屋のご主人は快く受け入れてくれた。聞けば登山道検査のために数名が泊まるためたまに小屋を開けていたらしい。ベッドの2段目に布団を何枚も敷いてもらったおかげで安眠できた。小屋で働くからこそありがたいと思えるようになった。こんなホスピタリティは自分には無い…。

### [2日目]

本日の目的地、三条の湯でゆっくりしたいので、4時には歩き始める。検査に来た人達は当然寝ているので、できるだけ音を立てずに部屋を抜ける。のだけれど、ハシゴの最後の一段を踏み外してドンッと着地してしまった。うーん不格好…いつも早立ちする団体のゴソゴソに起こされる立場なので気を使ったのに…。



雁坂小屋からは水晶山、古礼山と緩やかに下っていく。ヘッドライトの灯りだけなので注意して歩く。雁峠(がんとうげ)を下るころには空が白み、歩く先

が現れてきた。朝日が登り、じわりじわりと視界が広がる瞬間が好きだ。陽が出るとグッと暖かくなり、清々しい気持ちになる。小屋の厨房で何度も日の出を迎えていても、いつも新鮮な気分になれる。

さて峠には雁峠山荘がポツンと建っているが、手入れされなくなって久しい。実はこの先にも奥多摩小屋という立地の良い小屋があったのだけれども、去年に老朽化などで閉鎖され幕営も禁止となった。山小屋で働く身としては小屋が手放されるのは寂しい限りだが、仕方がないのだろう。そして朽ちていくのは登山道も同じで、雁峠から将監峠、飛龍山と繋がる道は一ヶ月経った台風 19 号の爪痕が残ったまま。復旧はまだ手付かずで、安全に通行できないと案内する小屋もあった。結局、登山客が何倍に増えようと、すぐにインフラが整う訳ではないんだと感じた。

三条の湯には 2 時頃に着いた。無人小屋のこととか、風景などなど考えていたらいつのまにか着いていた。テント泊とお風呂、あとコーラお願い、と受付して、20m 程下ってテントを張る。



お風呂は 1 時間ごとに男女の入浴時間が入れ替わるそうだ。2 日間とはいえ歩き通しだったので、顔を擦ると潮が手につく。いよいよ入浴！と服を脱いだとき、小屋泊まりの 2 人がやってきた。浴室の扉を開けると 4 人入れれば手狭な内湯がひとつ、カランがひとつの小さなお風呂。蓋を協力してはずしてとっぴりと浸かると、又ルッとした感触と硫黄臭がして、本当に温泉なんだと驚いた(そもそも天望荘には水源がないので比較できない)。なるほど、友人がお勧めするわけだ、と納得する。一緒に浸かる 2 人組は、学生の頃からの付き合いで、会社を退職して時間ができたから登りに来たという。「持つべきものは友だね」と話すが、本当にその通りだと感じる。小屋に来る団体のうちにはツアー以外に、

時々昔馴染みの集まりも見かける。そんな彼らは荷物を持ち寄ったり、ペースを合わせて飄々と登って来ることが多く安心できる。風呂で一緒になった彼らは 60 歳を超えるそうだが、70 超えても歩いていたいと楽しそうに話していた。

### [3 日目]

昨晩はやる事なくさっさと寝てしまった。行程も長いので夜明け前にテントを畳むと、小屋では朝食の準備で忙しそうだった。受付で挨拶だけして雲取山へ向かう。



3 日間のうち、今日の行程、三条の湯から奥多摩駅までの約 25 キロが最も長い区間となる。もっとも、通行人も多くメジャーなコースなので気楽に歩けるし、久しぶりの雲取山からの稜線歩きを楽しみにしていた。雲ひとつない快晴のなか、稜線を上下するか、平坦な巻道を通るかもその時の気分で決める。ハイペースに合わせたり、人を待つ必要もなくぐんぐん進み、これは快感と言ってい。登山というよりハイキング…ロングハイクのペースに近いのかもしれない。



ちなみに、ロングハイクを知ったのは最近のことで、長い距離を歩き、その土地の文化や人に触れる旅のことを指す。日本でも四国八十八ヶ所がそれに

あたるが、馴染みがなくむしろトレイルランニングが注目されている。ランニングブームも相まって、長距離を短時間で走るトレランが「お手軽」なのかもしれないが、競技性がある、山の保全や危機管理のモラル等難しい面もあるので否定派も多い(私も最近始めた。トレーニングが結果に結びつく達成感があって面白い。これからの山登りは、古典的な山頂ありきの縦走スタイルか、旅のロングトレイルか、競技のトレランか…おんぶに抱っここのツアー登山も依然多いか。と様々な選択肢が派生していて面白い。



民家を抜けると奥多摩駅に着いた。駅うへのカフェスペースは明るい色づかいがオシャレで、地元のお土産も揃っていた。15年前は、なぜか酔イカなんか売られてて古臭かったなあ、なんて懐かしく思う。そういえば小学生の頃、キャンプの帰りは遊び足りないような、疲れて帰りたいような気分で電車を待っていた。今は充実感があり、少しは前向きになったのかもしれない。

### 【登山の計画、これからの計画】

山に登る一週間前のこと。ハケ岳縦走をやってから、また長く歩きたいという気持ちが強まっていた私は、次は甲武信ヶ岳と考えていた。というのも、甲武信ヶ岳に至るまで一泊する必要があり、学生ときは敬遠していたから。周りには両神山、雲取山や大菩薩嶺と馴染み深い山に囲われていても、今まで甲武信ヶ岳に登る機会が無く、ぼっかり穴が空いていた。金峰山から甲武信ヶ岳への縦走ルートもトップンだが、何度も歩いた雲取山まで繋がる道も面白そうだし、どうせなら奥多摩駅まで歩いてしまおう、と目的地ありきで登山道を結んだら、丁度いい行程になりそうだった。悩んだのは三条の湯へ到着する時間で、知り合いがお勧めしていたので絶対に

早着して入浴したかった。しかし雁坂小屋からは遠く、笠取小屋に泊まるなら前日にもう一泊しなければならない。結局、セオリーから少し外れて雁坂小屋を夜明け前に出発することにした。

距離や時間ありきの計画というより、やりたいことを取り入れて、どうすれば出来るか帳尻を合わせた予定になってしまった。タイトな時間設定になったし、夜に雨予報ならテントを諦めて小屋泊まりでもいいかと場当たりな部分も多い。ああ、学生のころには出来なかった穴埋めをしてるんだなあ、と思う。とはいえ後ろ向きではいられないので、山との関わり方を色々試していきたい。夏は沢登りや釣り、冬はキャンプにバックカントリースキーなどなどとても気軽なものではないけれど、器用貧乏になりませんように。



(おわり)

